

NTN

2020年3月期
第2四半期
決算説明会資料



2019年11月6日

NTN株式会社

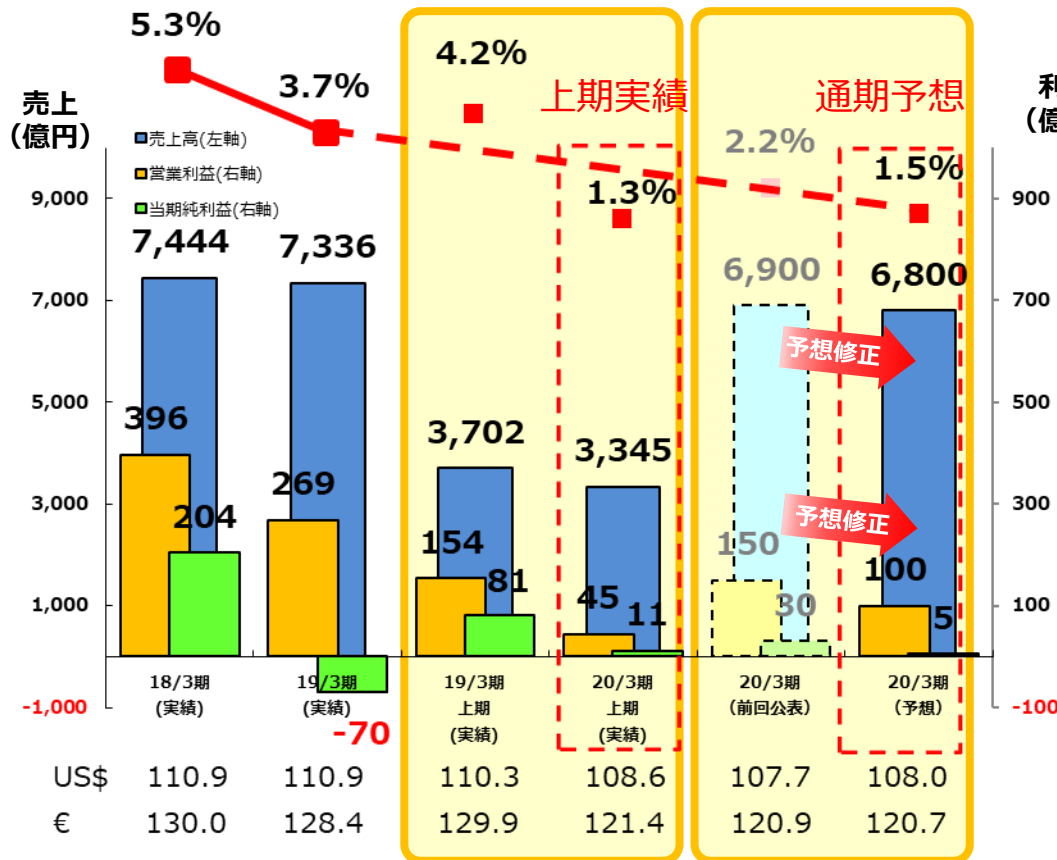
- I. 決算概要と「DRIVE NTN100」重点施策
- II. 2020年3月期第2四半期決算と通期見通し
- III. 質疑応答

- 本資料、プレゼンテーションおよび引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来の業績見通し、事業戦略が含まれており、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。
- これらの将来的予測に基づく記載や発言は将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が製品に対する需要変動、為替変動、金利変動、偶発債務などの様々な要素により、業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。

決算概要：業績サマリーと通期見通し①

上期 販売：アタマーケット、産業機械、自動車、ほぼ全地域において需要減少、前年同期比で減収
 利益：固定費を中心に費用の削減を進めるも、大幅な規模減の影響を受け同減益
 通期見通し：足元の需要環境を織り込み業績を下方修正。収益・CF改善を進める。配当減配

営業利益率



20/3上期実績 ()内は前年同期実績

売上高：**3,345億円** (3,702億円)
 前年同期比-9.6%、除く為替-7.1%
 営業利益：**45億円** (154億円)
 前年同期比-70.8%、除く為替-64.4%
 当期純利益：**11億円** (81億円)
 前年同期比-86.1%
 中間配当：**5円**

20/3通期予想 ()内は前期実績

売上高：**6,800億円** (7,336億円)
 前期比-7.3%、除く為替-4.7%
 営業利益：**100億円** (269億円)
 前期比-62.9%、除く為替-53.5%
 当期純利益：**5億円**
 特別損失45億円を織り込み (期初継続)
 年間配当：**10円*期末予想5円**

決算概要：業績サマリーと通期見通し②

上期の実績（対1Q時予想）

20/3上期実績 ()内は前回予想

売上高：**3,345億円** (3,400億円)

営業利益：**45億円** (60億円)

当期純利益：**11億円** (10億円)

中間配当：**5円** (7.5円)

①1Q（前回公表）から想定以上の需要落ち込み

貿易摩擦や欧州混迷を背景に景況が悪化

- ・アフターマーケット向け：グローバルで景況悪化、代理店も在庫調整
- ・産業機械向け：建機、農機、減速機を中心に需要減少
- ・自動車向け：日・米・欧・亜・中の全地域で台数と需要が減少

②6月末比で棚卸資産を削減するも、販売・規模減でFCFが低下

6月末比で在庫削減は進むも、販売減・規模減の影響が大きくFCFは当初想定からマイナスへ減少（上期FCF：-46億円）

下期の注力ポイント

20/3通期予想 ()内は前回予想

売上高：**6,800億円** (6,900億円)

営業利益：**100億円** (150億円)

当期純利益：**5億円** (30億円)

期末配当：**5円** (7.5円)

①短期：緊急的な収益改善策を継続

経費・人件費の固定費削減を継続

より一層の価格政策と、資源再配分による収益改善を推進

②短期・中期：FCF創出のための重点施策を推進

調達改革：グローバルで調達コストを削減。海外OEM品を活用

生産改革：生産改革を国内から実施、棚卸資産の大幅削減

事業再編：国内の生産再編を加速、高付加価値商品へ集中
国内外の不採算事業の見直し

資産売却：政策保有株の売却を推進

経営基盤の改善を進め、次の需要回復局面に備える

決算概況：アフターマーケット事業

上期：グローバルで景気後退、代理店の在庫調整等で、中国を除く地域で販売が減少、規模低下で減益

20/3上期実績 ()内は前年上期

売上高：**560億円** (611億円)

営業利益：**67億円** (78億円)

営業利益率：**11.9%** (12.8%)

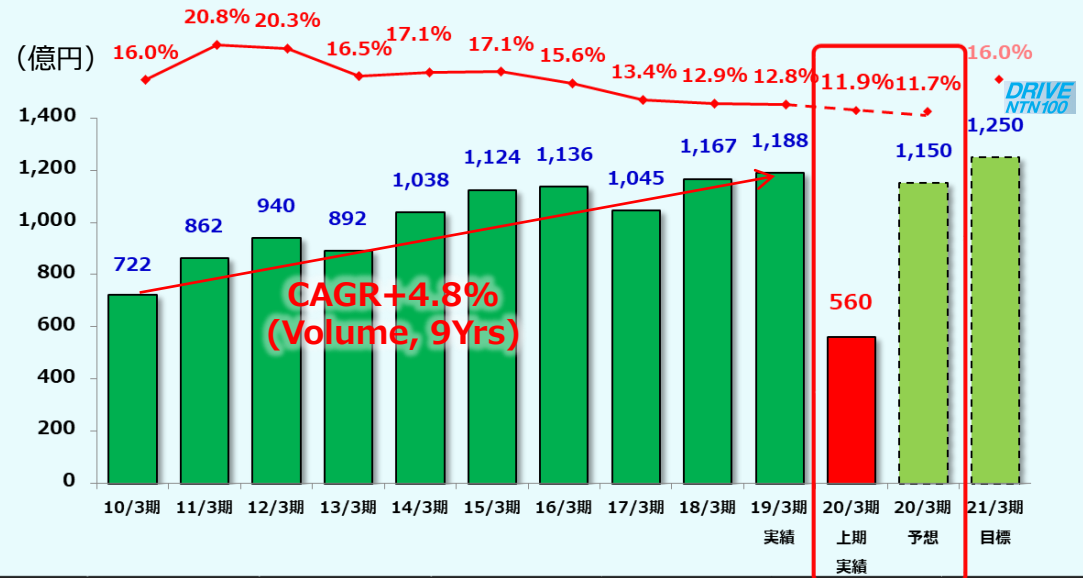
20/3通期予想 ()内は前期

売上高：**1,150億円** (1,188億円)

営業利益：**135億円** (152億円)

営業利益率：**11.7%** (12.8%)

アフターマーケット事業の売上高と営業利益率



注力：グローバルで販売拡大につなげる施策の実行

①需給：高収益・代表型番の供給能力拡大

海外パートナー活用によるOEM供給の拡大
海外工場品によるグローバル相互供給の拡大

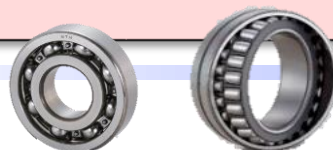
⇒安定供給体制を確立し、機会損失を防止

②収益：価格政策の推進

材料や物流費等、費用上昇分を価格に反映
収益性の向上を推し進める

③ブランド力の向上

サービス強化の継続
模造品対策等によるブランド価値の強化



上期：建設機械、農業機械、減速機、工作機等、主力業種のほぼ全てで販売が減少、規模低下で減益

20/3上期実績 ()内は前年上期

売上高：**539億円** (620億円)

営業利益：**-11億円** (16億円)

営業利益率：**-2.1%** (2.6%)

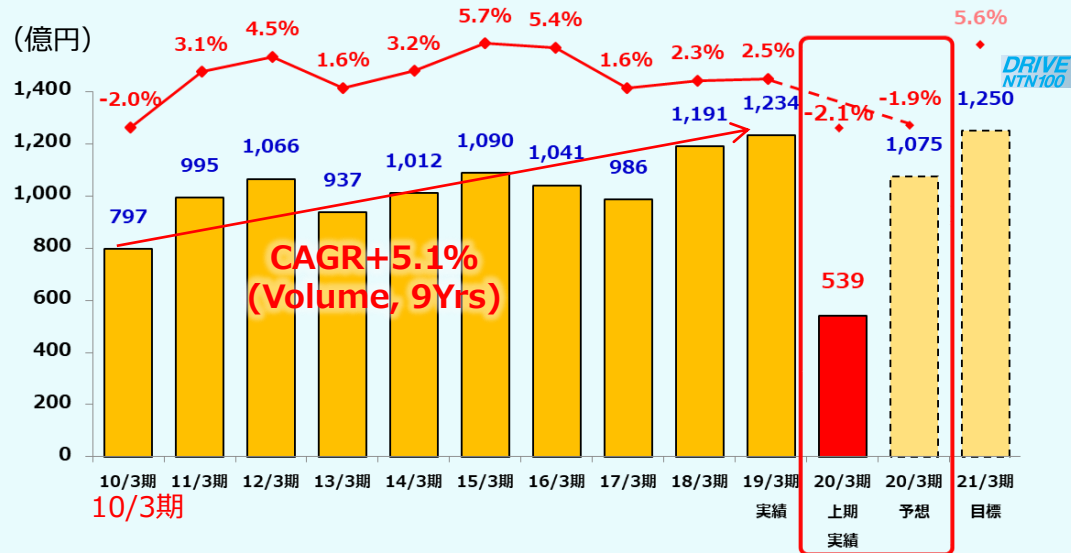
20/3通期予想 ()内は前期

売上高：**1,075億円** (1,234億円)

営業利益：**-20億円** (31億円)

営業利益率：**-1.9%** (2.5%)

産業機械事業の売上高と営業利益率



注力：基盤商品における短期的な収益改善施策と、中期的な競争力強化策の実施

①短期：価格政策による収益改善

鋼材・物流費等の価格反映の実施
不採算型番の撤退と、
収益ある顧客への資源再配分

②中期：原価改善による競争力強化とMIX改善

海外サプライヤの新規採用による比例費改善
高い競争力を有する商品の販売拡大
+ 新領域（サービス・ソリューション、IoT関連）商品の拡販



「CMS」



「i-WRIST®」

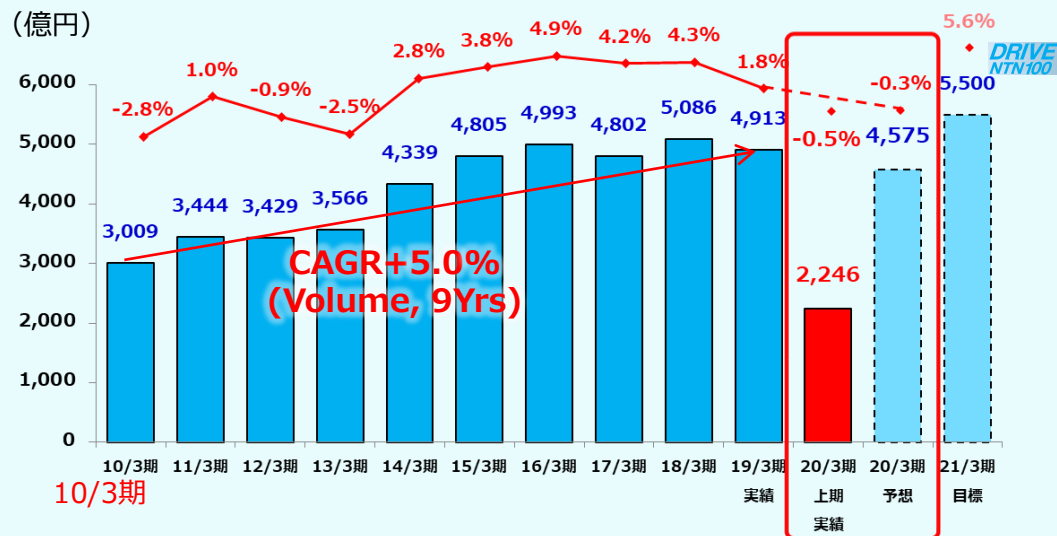
決算概況：自動車事業

上期：貿易摩擦、政策・政情不安等で、グローバルで自動車生産台数が減少し販売減、規模低下で減益

20/3上期実績 ()内は前年上期
 売上高： **2,246億円** (2,472億円)
 営業利益： **-10億円** (59億円)
 営業利益率： **-0.5%** (2.4%)

20/3通期予想 ()内は前期
 売上高： **4,575億円** (4,913億円)
 営業利益： **-15億円** (87億円)
 営業利益率： **-0.3%** (1.8%)

自動車事業の売上高と営業利益率



注力：短期的な収益改善施策と、中長期的な「収益構造改革」の実施

①短期：価格政策と経費削減

鋼材、米国関税の価格反映
 不採算品の原低・撤退、売価変更の実施
 拠点間物流の改善、間接部門の経費削減

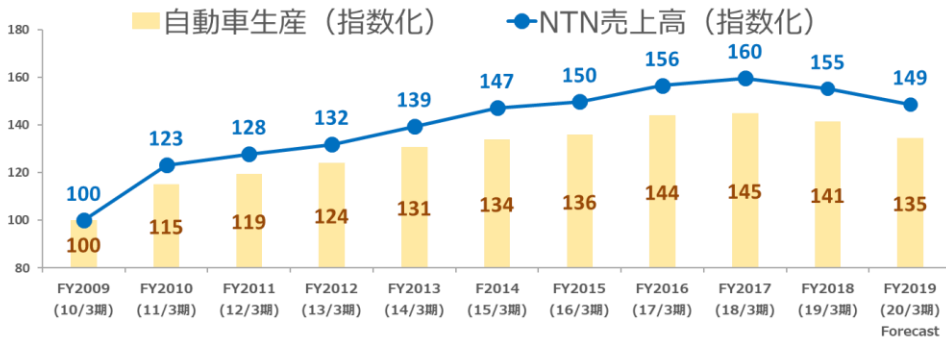
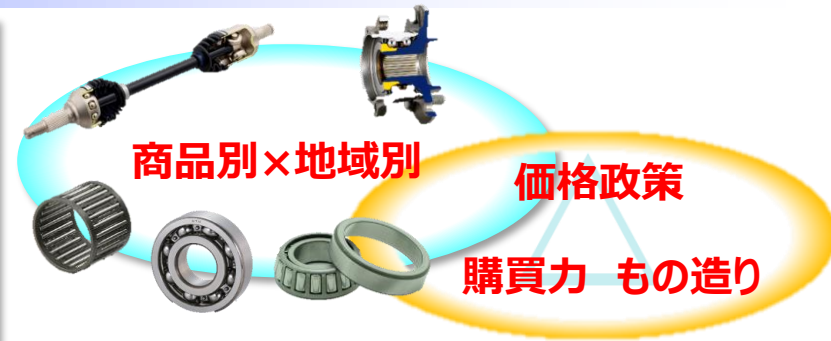
②中長期：注力事業領域で稼ぐ力を向上

「商種×地域」軸の受注・投資戦略を実行し、
 利益を伴う規模拡大
 調達・生産改革で規模に依存せず稼ぐ力を強化

自動車事業：中長期的な収益構造改革

中長期で実施する「収益構造改革」

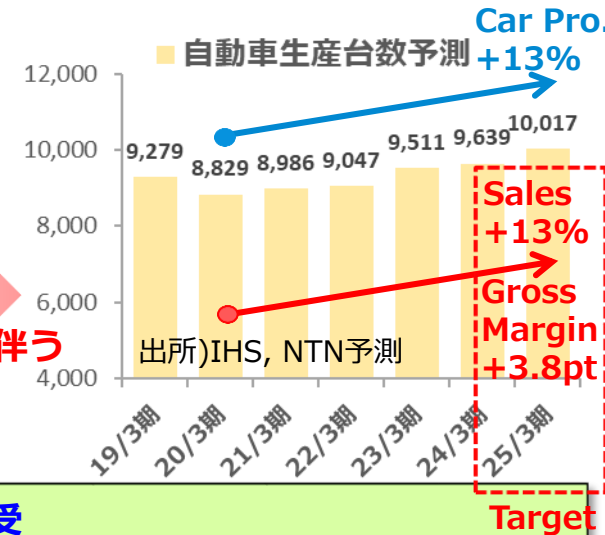
1. 注力する事業領域で稼ぐ
「商種×地域」で拡大ターゲットの峻別とリリース集中投入
2. 電動化・EVシフトを捉えた高付加価値商品の拡販
3. 利益を生む基本機能の再強化
営業（価格）×調達（比例費）×製造（加工）



出所)IHS, NTN予測 (物量推移を指数化)

←これまで
台数を超える成長

これから→
利益確保と改善を伴う
規模の拡大



CVJ/ドライブシャフト

利益：拡大するSUV、EV向け需要への対応
規模：アーンをはじめ成長市場でボリューム獲得

ハブベアリング

利益：超低トルクやeHUB/sHUB等高付加価値化、調達改革
規模：アジアを中心とした成長市場でシェア拡大

一般軸受

利益：電動化の高機能アプリケーションに注力
規模：日・中の生産再編・集約で規模効果

(参考) 中期経営計画「DRIVE NTN100」の概要

(中期経営計画の詳細は当社Webサイト※をご参照ください)

あるべき姿の実現に向けた取り組み

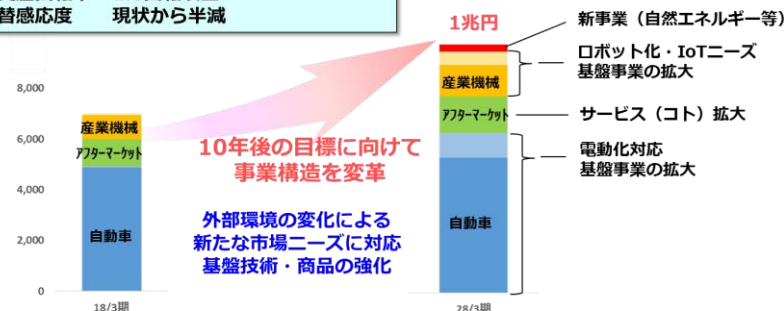


長期目標 (2027年度)

10年後の目標
「もの造り企業」から
「モノとコトを通じて顧客へ価値を届ける企業」へ

数値目標

売上高	1兆円以上
営業利益率	10%以上
総資産回転率	1.0回転以上
為替感応度	現状から半減



中期経営計画「DRIVE NTN100」

3年間の取り組み (2018年4月~2021年3月)



ポイント

1. 新たな領域への展開と
基盤技術・基盤商品の強化で持続的に成長
2. 3年間で事業を支える経営基盤の強化に注力

① 調達改革

② 工数とリソースの構造改革

製造部門のスマートファクトリ化 (IoT, AI, IoT活用)
間接部門業務のロボット化 (RPA導入)

③ SCM強化と投資の集中

新基幹システム活用、効率的な在庫保有とLT短縮
高付加価値商品に経営資源を集中

「DRIVE NTN100」の重点施策：産業機械事業 基盤技術・基盤商品の強化と新たな領域の展開の進捗



「DRIVE NTN100」の継続施策

1. 基盤技術の深耕、高機能商品の展開
2. 新たな領域への展開：
ロボット関連事業（ロボティクス）
サービス・ソリューション事業

目指す姿：抜群の技術力により
お客さまから最も頼りにされる企業へ

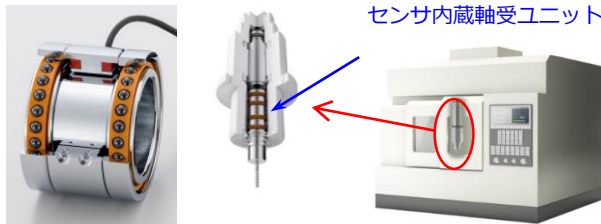
外部環境の変化に対応

- ・ 産業界におけるIoT普及、AI活用
- ・ ロボット関連需要の増加
- ・ モニタリングによる未然防止



1. 基盤技術の深耕、高機能商品の展開

IoT化に貢献する新商品の開発



センサ内蔵軸受ユニット

工作機械の高度な状態監視と
軸受の焼き付きを未然に防止
温度や振動に比べ40倍の上昇率の
熱流束センサを採用し
高度な状態監視を実現（業界初）
⇒生産性の向上とコスト低減に貢献

工作機械主軸用「センサ内蔵軸受ユニット」

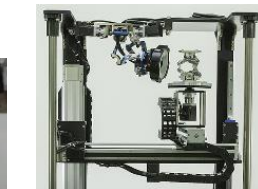
2-a. 新領域：ロボット関連事業

ロボット化に貢献する手首関節モジュールの開発

作動角90度のCVJ技術活用
生産ラインにおける省人化と
品質の向上を実現
→外観検査などの用途に向け、
市場投入するための施策を加速中



i-WRIST®
(アリスト)

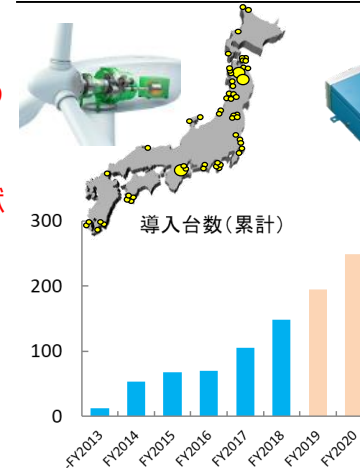


外観検査システム構成例



2-b. 新領域：サービス・ソリューション事業

モニタリングサービスのビジネス展開



「風力発電用CMS」

風力発電の状態監視システム
(CMS) の販売を拡大
モニタリングサービスの契約促進
CMS技術で差別化
⇒産学連携、AIで余寿命予測
⇒自動車(CASE)や工作機にも展開



「ポータブル異常検知装置」

軸受診断技術および振動解析技術を活用した軸受の異常検知装置
軸受の診断・分析用ツールなどを活用した診断技術サービスを提供

「DRIVE NTN100」の重点施策：自動車事業 基盤技術・基盤商品の強化と新たな領域の展開の進捗



「DRIVE NTN100」の継続施策

1. 基盤技術・基盤商品の強化：
EVを含む駆動領域のトップメーカーへ
2. 新たな領域への展開：電動化、EV化に対応



目指す姿：自動車市場に不可欠な存在として、世界中のクルマに商品・サービスを提供する企業に

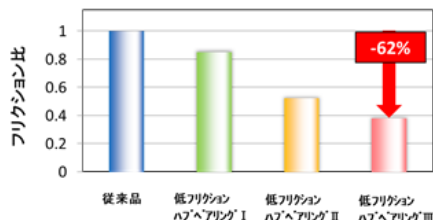
外部環境の変化に対応

- ・電動化やEV化、自動運転（CASE）
- ・新車生産台数の増加（人口増加）



1. 基盤技術・基盤商品の強化

駆動領域における超低フリクションを実現



「低フリクションハブベアリングⅢ」

低フリクションを追求したグリースを開発
耐久性を維持したまま回転フリクションを62%低減
車両燃費で約0.53%改善に貢献

「ULTAGE円すいころ軸受」量産受注

2017年超モノづくり部品大賞「自動車部品賞」受賞

世界最高水準の高負荷容量と高速回転を実現
高負荷容量：1.3倍
軸受定格寿命：2.5倍以上



2. 新たな領域への展開：電動化、EV化に対応

電動化への対応



「電動モータ・アクチュエータ」
量産開始

ポンプなど補機の電動化に対応

EV向け基盤商品の受注増加

低トルク、高剛性、高効率な商品で既存および
新興EVメーカーに採用増加



次世代車向けモジュール商品



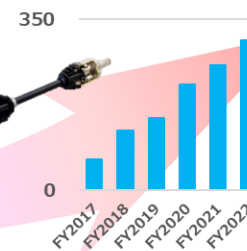
モータ・ジェネレータ機能付
ハブベアリング「eHUB」



ステアリング補助機能付
ハブベアリング「sHUB」

2019年超モノづくり部品大賞
「日本力賞」受賞

顧客へサンプル納入や走行試験
など実用化に向けた取り組みを
推進中



企業理念の実践を通じてESG課題に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します

環境 (Environmental)

- ✓ 革新的な技術・商品・サービスの開発
- ✓ 環境負荷低減
- ✓ 地球温暖化の防止

「環境貢献指標」を策定

自社製品の環境貢献度を見える化
⇒20年前の商品と比較して、

年間約140万トンのCO2消費量を削減

最も環境貢献度が高い商品「S-eco」



社会 (Social)

- ✓ 社会貢献活動
- ✓ 地域との共生
- ✓ 働き方改革



「NTN回る学校」を国内外で開催

自然エネルギー商品を活用した災害地域の支援活動

コンテナ移動型独立電源「N³ iFaiブ」による電源供給



多様な働き方の推進
在宅勤務制度の推進
「テレワークイブ2019」に参加



子育て支援：
次世代認定マーク「くるみん」1回目取得



ガバナンス (Governance)

- ✓ コーポレートガバナンスの強化・充実
- ✓ リスクマネジメント
- ✓ コンプライアンス推進



ESG説明会を開催(2019年10月)

機関設計の変更
指名委員会等設置会社へ移行
(2019年6月～)

社会課題の対応

国連グローバル・コンパクト

人権・労働・環境・腐敗防止の4分野・10原則を支持

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGsを意識した事業活動



SRIインデックスに採用

ESG情報の情報開示を推進



GPIFが採用するESG指数に選定

「DRIVE NTN100」 主な経営指標



	2018年3月期 実績	DRIVE NTN100			
		2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	2021年3月期 目標	
売上高	7,444億円	7,336億円	6,800億円	8,000億円	
営業利益	396億円	269億円	100億円	570億円	
営業利益率	5.3%	3.7%	1.5%	7.1%	
当期純利益	204億円	-70億円	5億円	300億円	
設備投資額	376億円	452億円	500億円	1,700億円／3年間 (うち無形200億円)	
フリーキャッシュ・フロー	134億円	-224億円	0億円	450億円／3年間	
棚卸資産回転率	4.1回	3.8回	4.0回	4.5回	
ネットD/Eレシオ	0.9	1.2	1.3	1.0以下	
自己資本比率	30.2%	27.4%	25.9%	30%以上	
ROE	8.4%	-2.9%	0.2%	10.0%以上	
NTN-ROI*	5.7%	3.8%	1.4%	7.5%以上	
配当	15.0円	15.0円	10.0円	15.0円以上	
為替レート**	USD	¥110.8	¥110.9	¥108.0	¥110
	Euro	¥129.6	¥128.4	¥120.7	¥115

*NTN-ROI：税引後営業利益÷（有形固定資産＋棚卸資産）

**為替レート：2020年3月期予想の為替レートは期中平均レート（下期：USD=¥107、Euro=¥120）

- I. 決算概要と「DRIVE NTN100」重点施策
- II. 2020年3月期第2四半期決算と通期見通し
- III. 質疑応答

★2020年3月期 第2四半期決算のポイント及び通期見通し

1. 連結損益
2. 地域別売上高
3. 事業形態別売上高・営業利益
4. 事業形態別業績（四半期推移）
5. 営業利益増減
6. 所在地別 売上高・営業利益
 - (1) 日本・米州
 - (2) 欧州・アジア他
7. 棚卸資産
8. 設備投資・減価償却費
9. 有利子負債
10. キャッシュ・フロー

2020年3月期 第2四半期(4-9月)の実績

◇売上高: **3,345億円**

・前年同期比**△357億円**の減収(除く為替**△264億円**)

◇営業利益: **45億円**

・前年同期比**△109億円**の減益(除く為替**△99億円**)

◇経常利益: **28億円**

・前年同期比**△97億円**の減益(除く為替**△87億円**)

◇親会社株主に帰属する四半期純利益: **11億円**

・前年同期比**△70億円**の減益(除く為替**△62億円**)

◇フリーキャッシュ・フロー: **△46億円**、前年同期比**+47億円**の増加

2020年3月期の業績予想を修正

- ◇売上高： **6,800億円**、前回公表6,900億円から**△100億円**
- ◇営業利益： **100億円**、前回公表150億円から**△50億円**
- ◇特別損益： **△45億円**、前回公表から変更なし
- ◇親会社株主に帰属する当期純利益：
5億円、前回公表30億円から**△25億円**
- ◇配当については、年間**10円**を予定、前回公表から**△5円**
(中間・期末ともに、**5円**)
- ◇為替レート：1US\$=**107円**(前回公表107円)、1EURO=**120円**(同120円)

1. 連結損益

単位：億円

	'19年3月期			'20年3月期		増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②		合計	除く為替	為替
売上高	3,702	3,634	7,336	3,345	6,800	△ 357	△ 264	△ 93
営業利益	154	116	269	45	100	△ 109	△ 99	△ 10
(営業利益率)	(4.2%)	(3.2%)	(3.7%)	(1.3%)	(1.5%)	(△2.8%)		
経常利益	126	97	222	28	60	△ 97	△ 87	△ 10
特別損益	-	△ 193	△ 193	△ 7	△ 45	△ 7	-	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	81	△ 151	△ 70	11	5	△ 70	△ 62	△ 8
為替 US\$	110.3	111.5	110.9	108.6	107.8	△ 1.6		
レ - ト EURO	129.9	126.9	128.4	121.4	120.7	△ 8.4		

2. 地域別売上高

単位：億円

	'19年3月期			'20年3月期		増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②		合計	除く為替	為替
日本	1,023	1,050	2,072	1,001	2,040	△ 22	△ 22	-
米州	1,004	1,011	2,015	906	1,825	△ 98	△ 80	△ 17
欧州	855	823	1,678	722	1,470	△ 133	△ 83	△ 50
アジア他	820	750	1,570	715	1,465	△ 105	△ 79	△ 25
合計	3,702	3,634	7,336	3,345	6,800	△ 357	△ 264	△ 93

3. 事業形態別売上高・営業利益

<事業形態別売上高>

単位：億円

	'19年3月期			'20年3月期		増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②		合計	除く為替	為替
補修	611	578	1,188	560	1,150	△ 51	△ 32	△ 18
産業機械	620	614	1,234	539	1,075	△ 81	△ 66	△ 14
自動車	2,472	2,442	4,913	2,246	4,575	△ 225	△ 165	△ 60
合計	3,702	3,634	7,336	3,345	6,800	△ 357	△ 264	△ 93

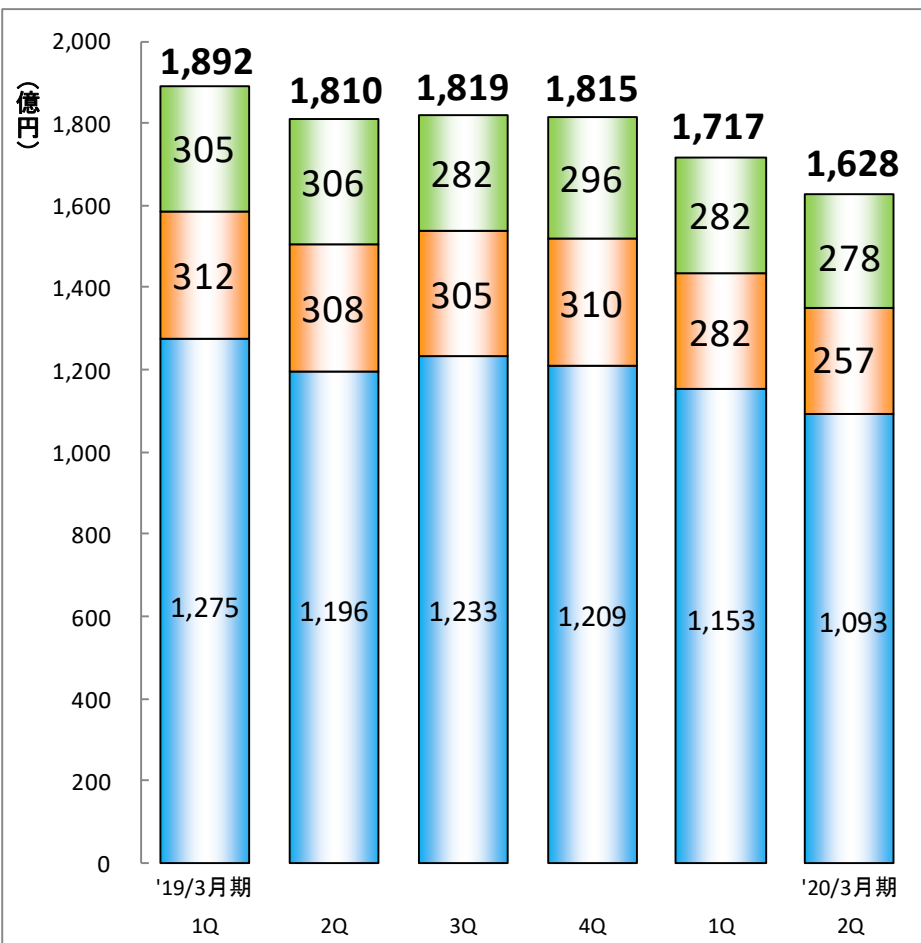
<事業形態別営業利益>

	'19年3月期			'20年3月期		増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②				
補修	78	73	152	67	135	△ 12		
産業機械	16	15	31	△ 11	△ 20	△ 28		
自動車	59	28	87	△ 10	△ 15	△ 69		
合計	154	116	269	45	100	△ 109		

4. 事業形態別業績(四半期推移)

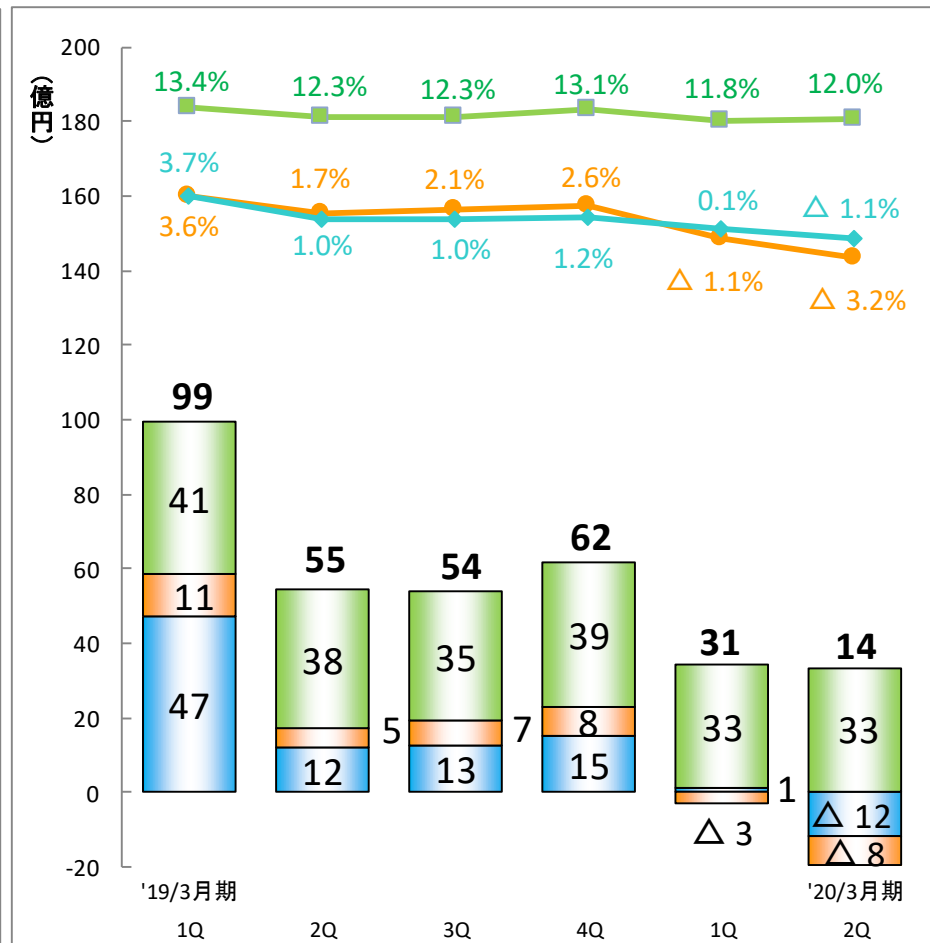
売上高

自動車 産業機械 補修

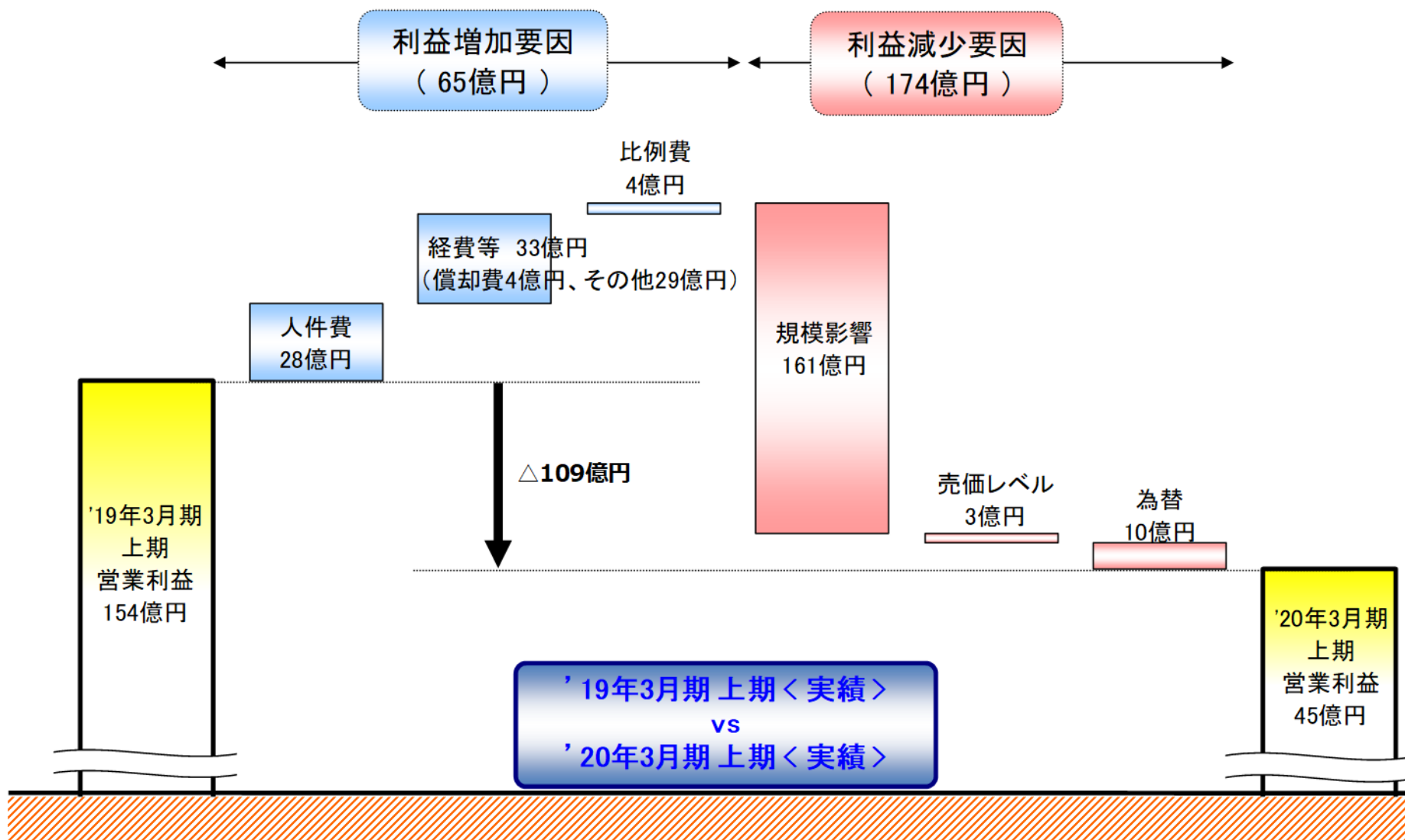


営業利益/営業利益率

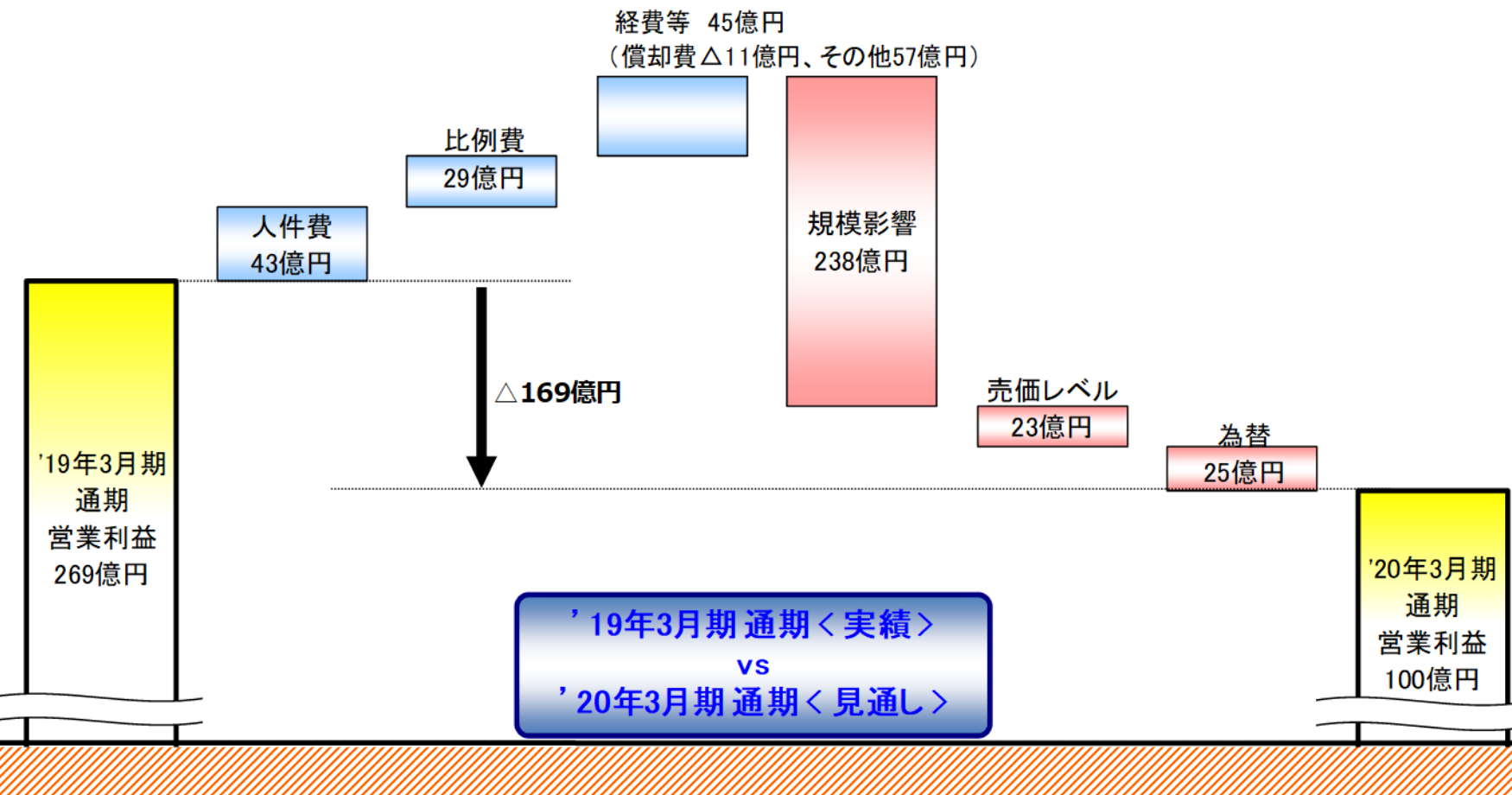
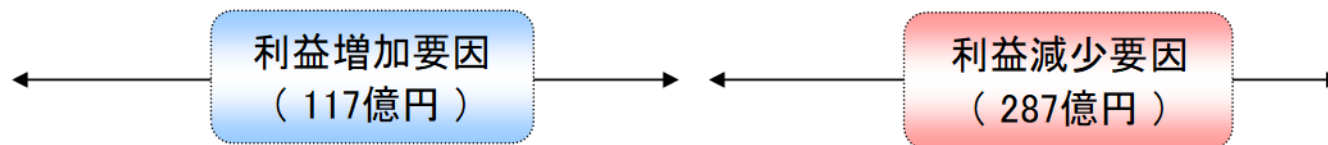
自動車 産業機械 補修



5-1. 営業利益増減（'20年3月期上期）

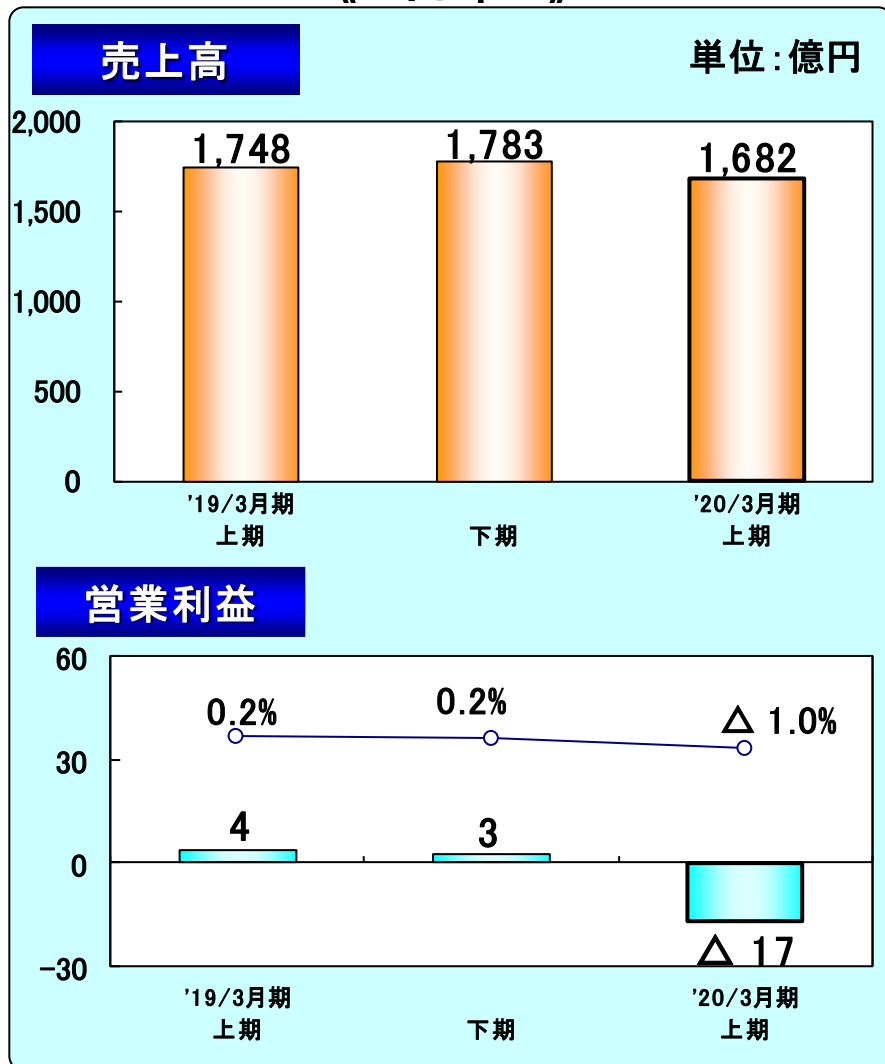


5-2. 営業利益増減（'20年3月期通期）

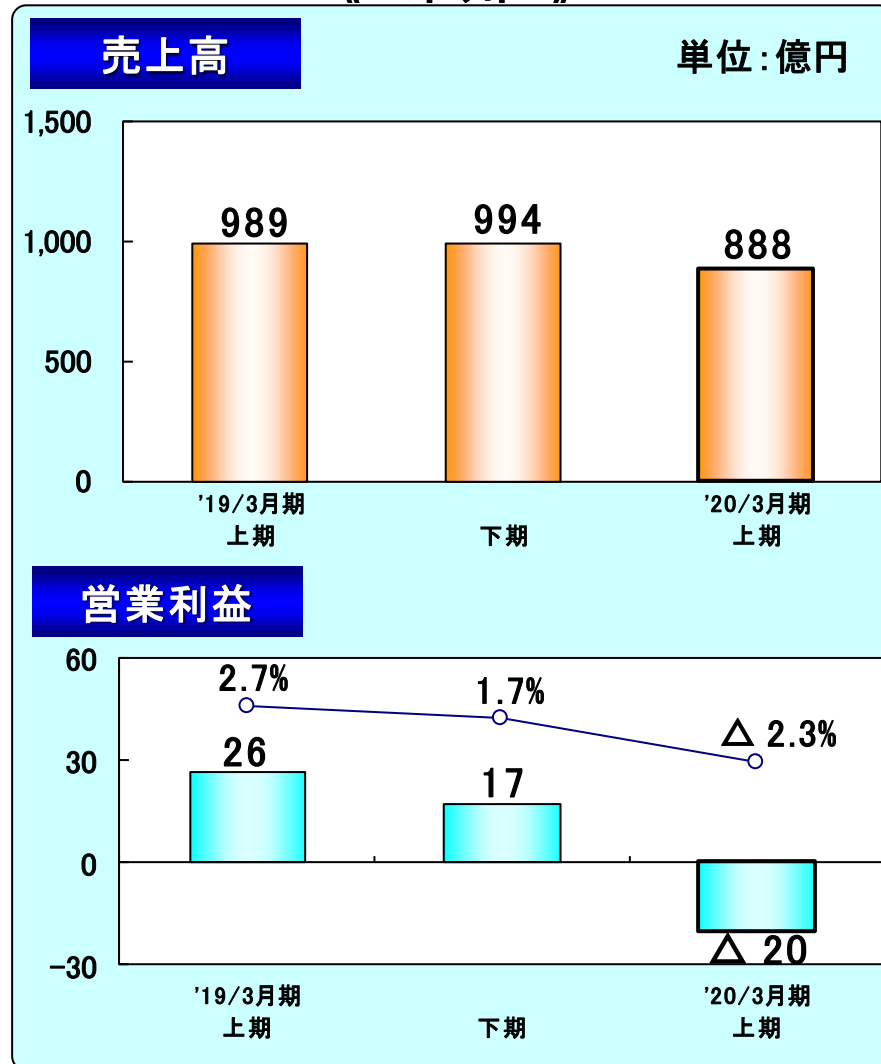


6. 所在地別 売上高・営業利益（日本・米州）

《 日本 》



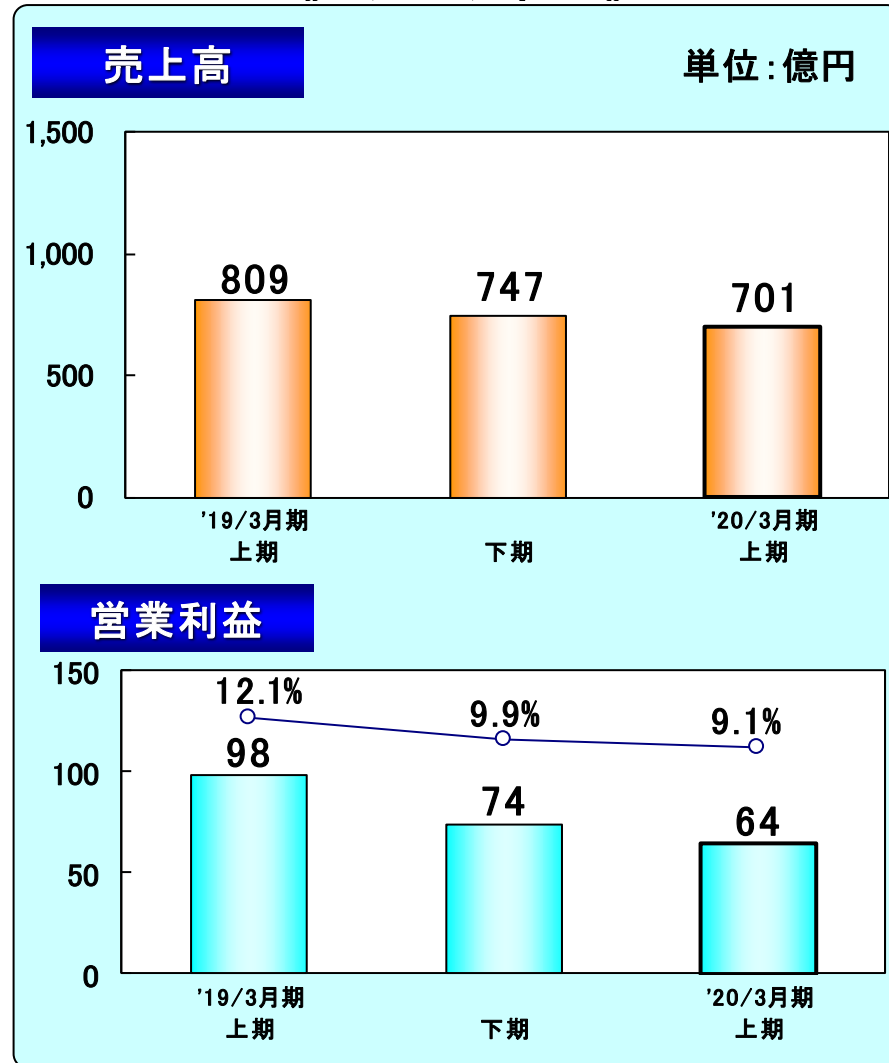
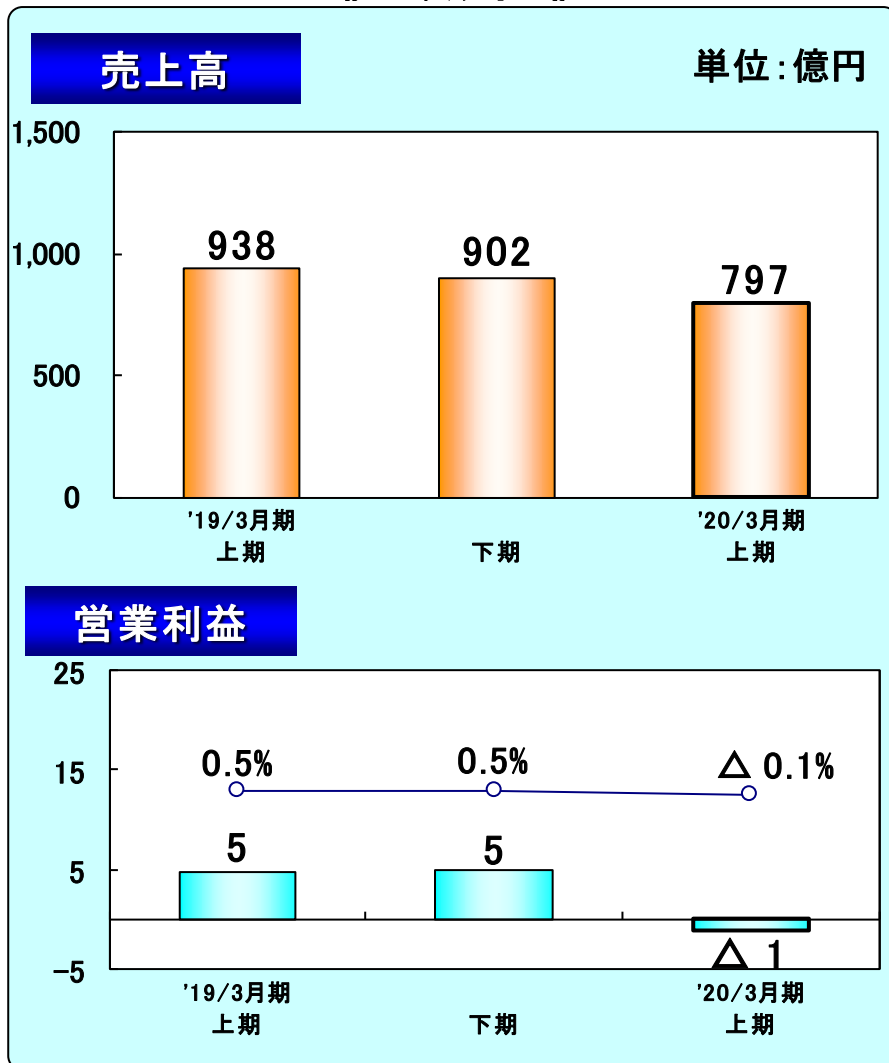
《 米州 》



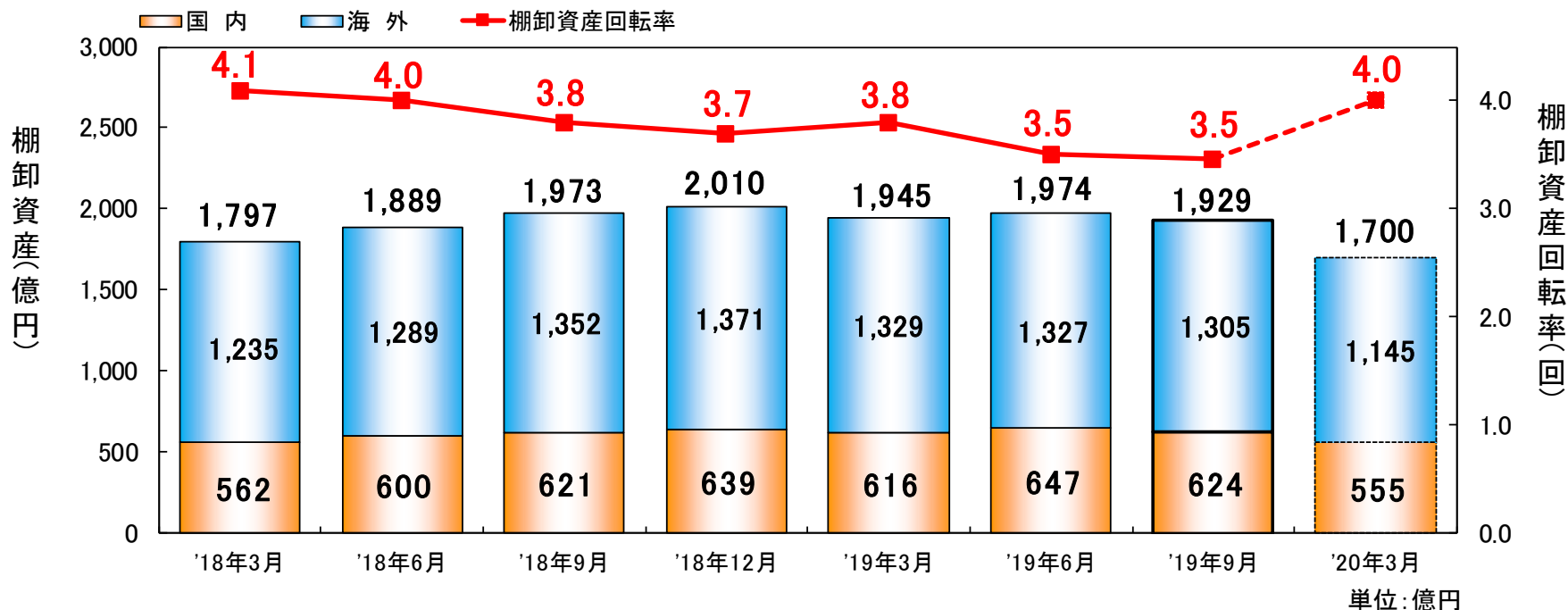
6. 所在地別 売上高・営業利益（欧州・アジア他）

《 欧州 》

《 アジア他 》



7. 棚卸資産

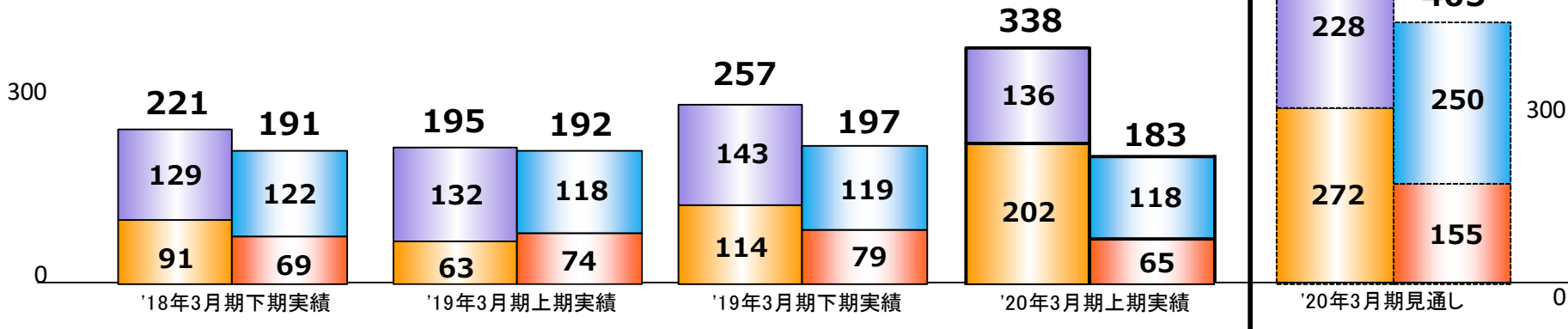
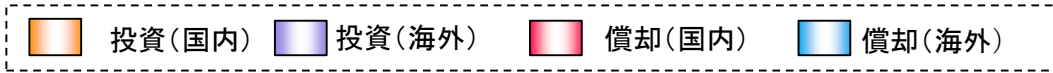


	'18年3月 実績	'18年6月 実績	'18年9月 実績	'18年12月 実績	'19年3月 実績	'19年6月 実績	'19年9月 実績	'20年3月 見通し
棚卸資産	1,797	1,889	1,973	2,010	1,945	1,974	1,929	1,700
（海外）	(1,235)	(1,289)	(1,352)	(1,371)	(1,329)	(1,327)	(1,305)	(1,145)
（国内）	(562)	(600)	(621)	(639)	(616)	(647)	(624)	(555)
棚卸資産回転率(回)	4.1回	4.0回	3.8回	3.7回	3.8回	3.5回	3.5回	4.0回

8. 設備投資・減価償却費

(単位: 億円)

600



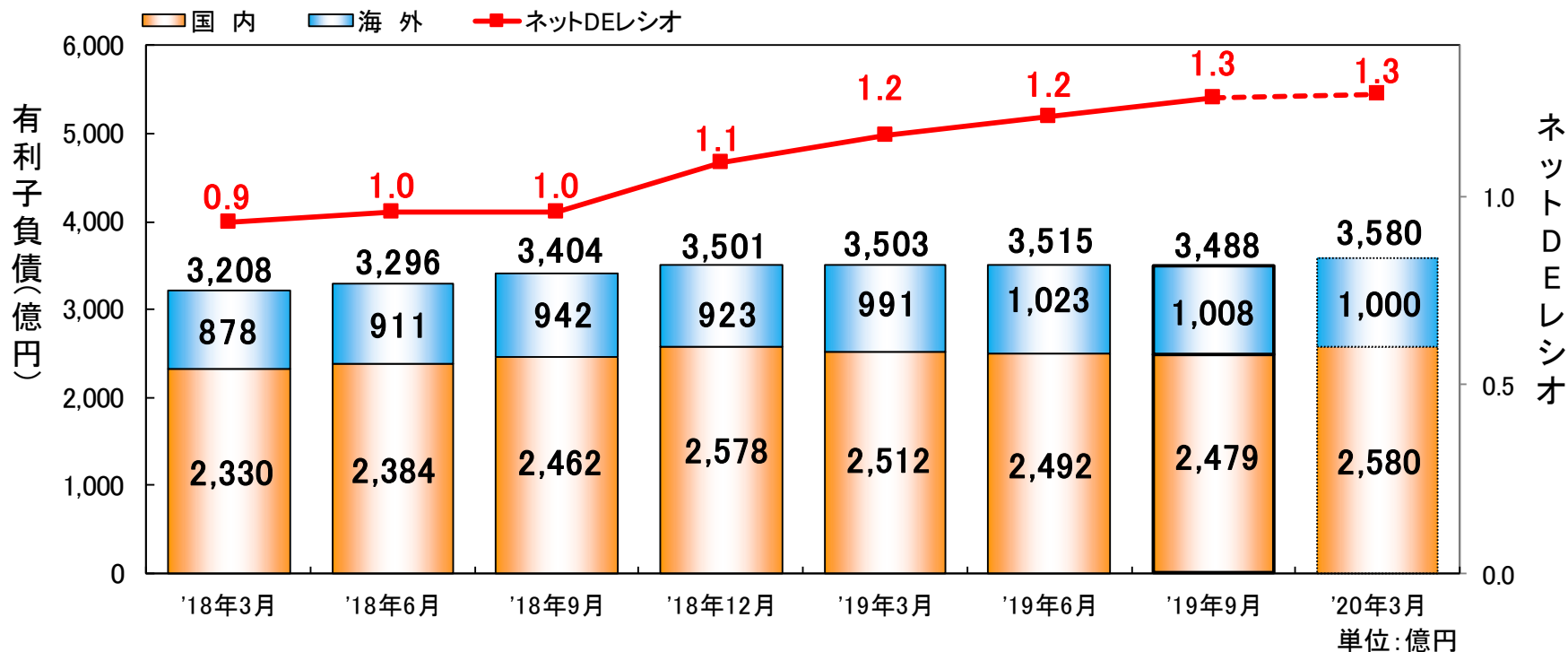
単位: 億円

	'18年3月期 下期実績	'19年3月期		'20年3月期 上期実績②	増減 ②-①	'20年3月期 見通し
		上期実績①	下期実績			
設備投資	221	195	257	※338	144	500
(海外)	(129)	(132)	(143)	(136)	(4)	(228)
(国内)	(91)	(63)	(114)	(202)	(140)	(272)

※他に、無形固定資産投資額47億円があります。

	'18年3月期 下期実績	'19年3月期		'20年3月期 上期実績②	増減 ②-①	'20年3月期 見通し
		上期実績①	下期実績			
減価償却費	191	192	197	183	△9	405
(海外)	(122)	(118)	(119)	(118)	(0)	(250)
(国内)	(69)	(74)	(79)	(65)	(△9)	(155)

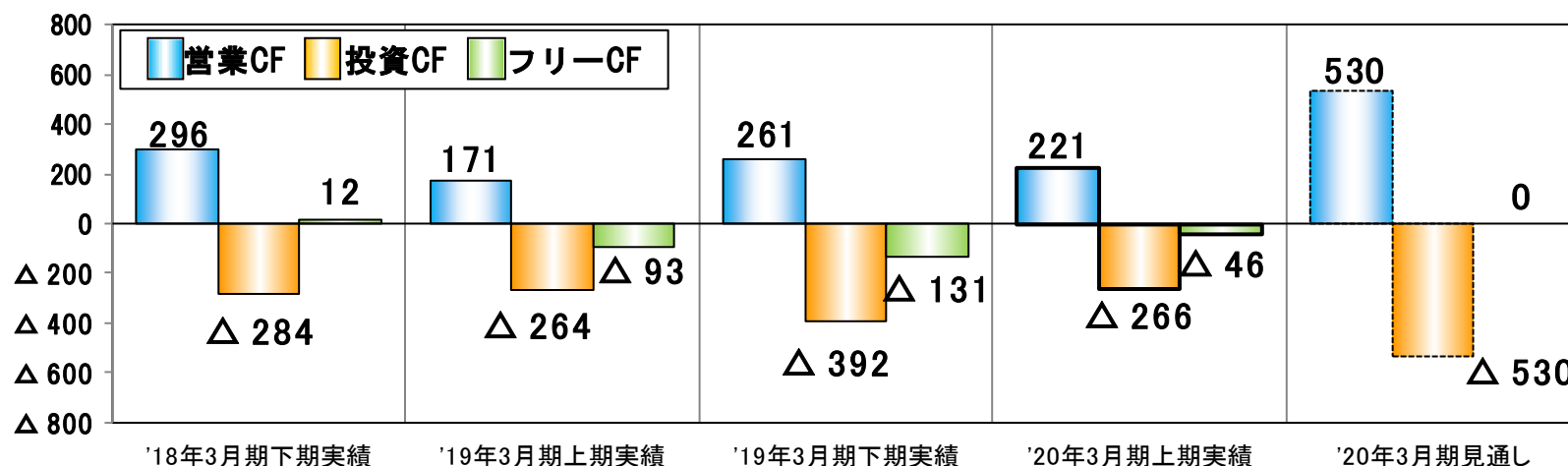
9. 有利子負債



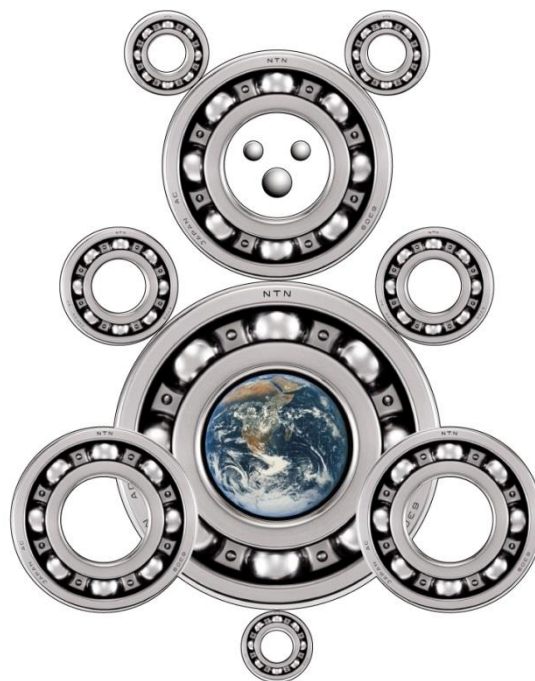
	'18年3月 実績	'18年6月 実績	'18年9月 実績	'18年12月 実績	'19年3月 実績	'19年6月 実績	'19年9月 実績	'20年3月 見通し
有利子負債	3,208	3,296	3,404	3,501	3,503	3,515	3,488	3,580
（海外）	(878)	(911)	(942)	(923)	(991)	(1,023)	(1,008)	(1,000)
（国内）	(2,330)	(2,384)	(2,462)	(2,578)	(2,512)	(2,492)	(2,479)	(2,580)
ネット有利子負債	2,347	2,440	2,527	2,670	2,669	2,686	2,732	2,720

10. キャッシュ・フロー

単位: 億円	'18年3月期	'19年3月期		'20年3月期	'20年3月期	②-①
	下期実績	上期実績①	下期実績	上期実績②	見通し	
I. 営業活動による キャッシュ・フロー	296	171	261	221	530	49
II. 投資活動による キャッシュ・フロー	△284	△264	△392	△266	△530	△3
I + II. フリーキャッシュ・フロー	12	△93	△131	△46	0	47
III. 財務活動による キャッシュ・フロー	△22	118	89	△23	33	△141
IV. 現金及び現金同等物 に係る換算差額等	2	△9	△0	△11	△8	△2
V. 現金及び現金同等物の 増減額	△8	16	△42	△79	25	△95



**DRIVE
NTN100**



For New Technology Network

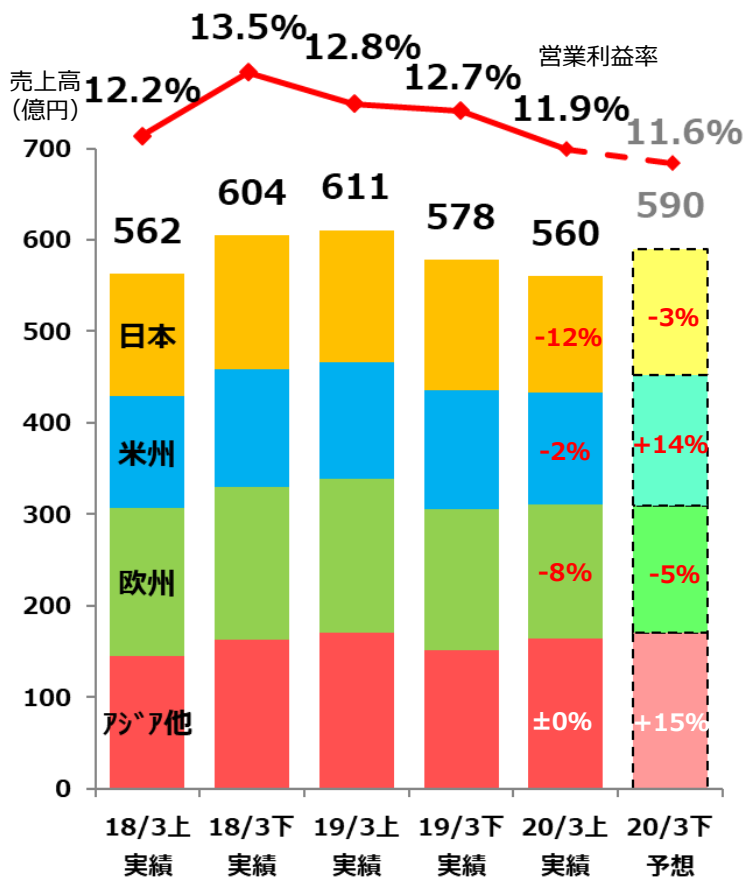
NTN®

NTN corporation

Digitalization, **R**esources, **I**nnovation, **V**ariable cost reformation, **E**fficiency improvement
NTN **T**ransformation for **N**ew **100**years

<上期実績(対19/3上期)> **売上高:560億円(△8.3%),営業利益:67億円(△15.2%)**

- 産機補修はグローバルで景気減速の影響を受け、アジア他を除き代理店向けが販売減
- 自動車補修は、代理店の在庫調整や景気減速の影響を受け欧州を中心に販売減



<下期予想：対19/3下期の販売増減コメント>

日本

工作機械補修用軸受等の需要減、市況低迷により、代理店からの受注高が減少

米州

中南米向け体制強化に加え、オートパーツ代理店ネットワーク向け拡販活動により販売増

欧州

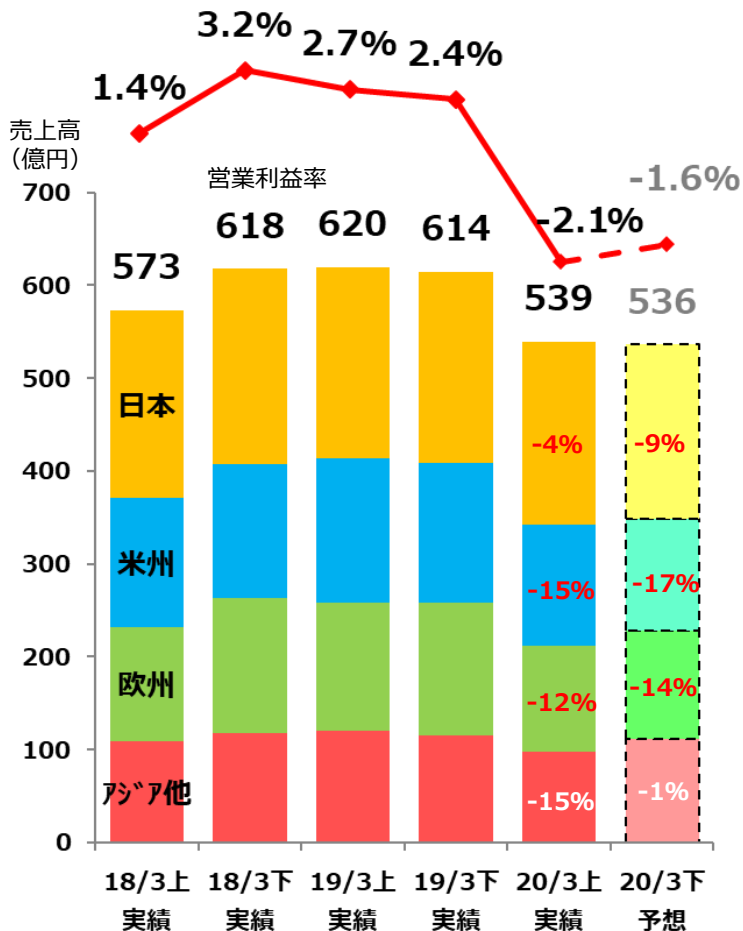
産業機械向け、自動車向け共に市況低迷の影響、代理店の在庫調整等により販売減

アジア他

産業機械向け、自動車向け共に、中国を中心に堅調な需要により販売増

<上期実績(対19/3上期)> **売上高:539億円(△13.0%),営業利益:△11億円**

- 米中貿易摩擦の影響で、全地域で建設機械や減速機向けが減少
- 風力発電は中国で増加するも、先行き不透明な米州、政府補助金削減の欧州で減少



<下期予想：対19/3下期の販売増減コメント>

日本

鉄道車両や農業機械向けで増加するも、建設機械や減速機向けの減少により販売減

米州

建設機械や風力発電、減速機向けなどの減少により販売減

欧州

航空機や鉄道車両向けで増加するも、風力発電や減速機、建設機械の減少により販売減

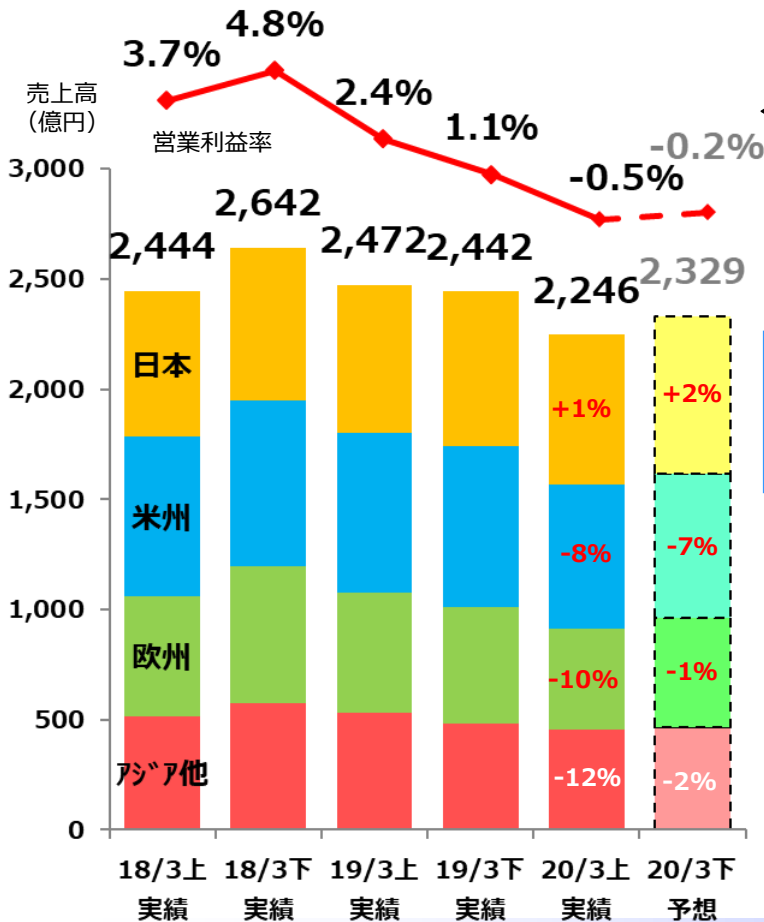
アジア他

中国の風力発電は増加するも、減速機や建設機械向けの減少により販売減

<上期実績(対19/3上期)> **売上高:2,246億円(△9.1%),営業利益:△10億円**

- 欧州は新燃費基準(WLTP)やイラン制裁の影響からの回復が遅れ販売減
- 中国は米中貿易摩擦による景気減速や新排ガス規制(国6)の影響を受け販売減

<下期予想：対19/3下期の販売増減コメント>



日本

車両生産台数は低下するも、新モデルの立上り効果や、納入車種の販売好調により微増

米州

SUV/ピックアップは需要堅調も、主要モデルの終息、セダン系販売低迷が続き販売減

欧州

新モデル立ち上がりの効果はあるも、欧州経済の不透明感による需要低下や、イラン制裁長期化の影響を受け微減

アジア他

インド市場の減速、ASEANから欧米等への輸出需要の減、中国の対米貿易摩擦、新排ガス規制の影響を受け微減